

Title	国際間ベンチャー企業の戦略及びリスク分析-日中PCベンチャー企業の実例研究-
Sub Title	
Author	王鋒涛(Ou, Houtou) 小野桂之介
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2001
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2001年度経営学 第1668号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002001-1668

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	小野 研究会	学籍番号	80028189	氏名	王鋒涛
(論文題名)					
<p>国際間ベンチャー企業の戦略及びリスク分析 - 日中 PC ベンチャー企業の実例研究 -</p>					
(内容の要旨)					
<p>日本国内では再利用されず、廃棄されるパソコン (PC) は環境に悪く、資源の浪費でもある。一方、中国の PC 市場では、初心者が多く、その経済的な購買能力もそれほど高くない。こうした中国の消費者にとって、日本国内で魅力のないスペックの中古 PC でも、商品価値がある。特に、ノート型 PC の市場では、中国国産 PC は日本製 PC と比べ品質的に劣り、新品の輸入 PC の価格はとても高い。そこで、安価で良質な日本製中古 PC に対するかなり大きな潜在市場が存在すると考えられる。こうした認識から、筆者の家族は、2001 年 5 月、日本で仕入れた中古ノート型 PC を中国の市場で販売するベンチャー企業を立ち上げた。</p> <p>本修士論文研究では、この中古 PC ビジネスに関して、限られた経営資源を有効に活用しながら市場競争に打ち勝ち、予想されるリスクを回避・抑制し、できるだけ失敗せずよりよい事業成果を実現する経営戦略を検討することとした。</p> <p>競争戦略策定における分析フレームワークとしては、“顧客はどの要因を重要視するか”という顧客ニーズの側面と、“自社としてどの要因が差別化しやすいか”という競合関係の側面を考慮しながら差別化戦略を構築する小野桂之介・根来龍之の競争戦略論を用いた。“顧客はどの要因を重要視するか”という顧客ニーズの側面については、ターゲットとする中国大都市部で PC ショップの一般消費者を対象とするアンケートを行い、顧客の選好特性と購買行動について把握した。また、“自社としてどの要因が差別化しやすいか”という競合関係の側面については、自社で動員可能な経営資源と主な競合相手の戦略を分析し、総合的に判断した。</p> <p>オペレーションの面のリスク分析については、松田修一監修、早稲田大学アントレプレヌール研究会編「ベンチャー企業の経営と支援 (新版)」とカール・H. グェスパー著、徳永豊他編「ニューベンチャー戦略」のリスク体系図を参考にしながら、仕入、販売のプロセスと修理、保証のプロセスにおける起こりうるリスクを、モノ、情報、カネの観点から予想し、対策アクションを考案した。</p> <p>経営環境面からくるリスクについては、M. ポーターの経営戦略論をフレームワークとして、買い手、売り手、参入障壁、競合者、代替品の 5 つの観点から自社が直面しうるリスクを検討し、それらに対する備えを提案した。</p>					